

「川崎市自殺対策の推進に関する条例」の制定とその後の取り組み

(平成28年3月)



【自殺予防デー街頭キャンペーンの様子】

全国の自殺者数は、平成10年以降14年連続して、年間3万人を超える状態が続いていました。その後は減少傾向にあるものの、川崎市でも、毎年250人以上の方が自殺で亡くなる深刻な状況が続いていました。自殺は、個人の問題としてのみではなく、社会全体で取り組む問題として捉える必要があり、また、市民一人ひとりが自殺を自らと決して無関係ではない問題として意識し、自殺対策に関心と理解を深めていくことが重要となっていました。このような背景の下、健康福祉委員会から提案された「川崎市自殺対策の推進に関する条例」は、平成25年に市議会本会議で可決・成立し、これを受けて、市当局も、この条例に基づく計画を策定し、現在、様々な施策に取り組んでいます。

豆知識

議会の活性化が求められる中、川崎市議会でも議会（委員会・議員）から条例が提案されています。

なお、条例を提案するには、次の方法があります。

- 住民が有権者の1/50の連署をもって直接請求する。（地方自治法第74条第1項）
- 議会の委員会が提案する。（同法第109条第6項）
- 議員が1/12以上の議員の賛同を得て提案する。（同法第112条第1項及び第2項）
- 知事や市長などの首長が提案する。（同法第149条）



【川崎市自殺対策推進キャラクター うさっぴー】

<条例制定までの議会での審議>

【平成22年第1回定例会（3月）】

質問

警察庁によると自殺者が3万人を超えるのは12年連続で、本市でもこれまで毎年250人余の自殺者を出しています。自殺対策は、市が総力を挙げて取り組む喫緊の課題です。市の体制の整備・強化や有効な自殺対策はどうなっていますか。

答弁

体制整備については、精神保健福祉センター内に自殺予防対策担当を設置し、関係機関とのネットワークの構築や自殺対策に係る人材育成等への取り組みを進めます。有効な自殺対策については、自殺に追い込まれる要因が多岐にわたることから幅広い対策が必要となりますが、身近な人たちが早期に異変に気づき、相談窓口や

専門医療機関につなげていくことや、あらゆる機会を活用し啓発を図ることが、一人でも多くの人を救うために大切であると考えています。

【平成23年決算審査特別委員会（9月）】

要望

自殺対策における政策評価の指標は、主にこころの健康セミナーへの参加者数の増加や、また映画館での普及映像の放送、放映などで評価されていますが、本来、評価設定すべき指標というのは、自殺者数を一人でも、少しでも抑えるということです。しっかりとこの問題に直面した指標を立てることを要望します。

【平成24年第4回定例会（12月）】

質問

教育の場で命の大切さを学ぶ機会を持つことは、若者の自殺防止のために非常に重要になると考えます。本市の小中学校における命を大切にする教育の取り組みについて、今後の方向性を伺います。

答弁

各教科等において学齢に応じた様々な取り組みを行うとともに、各学校における教育相談体制の充実に努めてきましたが、今後も引き続き子どもたち自らが命の大切さを自覚し、自他の生命を尊重できるようにする学習活動や、子どもたちが相談しやすい学校の体制づくりを支援します。

【平成25年第1回定例会（2月）】

質問

自殺対策については、県の指針に基づくだけでなく、川崎市の個別的な地域特性への配慮が不可欠と考えます。一昨年に自殺対策条例を制定した新潟県の新発田市では、独自の行動計画を作成していますが、こうした行動計画を本市では作成しているのか、していないのであれば、その理由と今後の展望をお聞かせください。

答弁

新発田市の行動計画と同様な目的を持つかながわ自殺総合対策指針がありますので、同指針に沿って、神奈川県、横浜市、相模原市と協調して広域的に進めるとともに、ゲートキーパーの養成及び鬱病等の早期発見、早期治療等もあわせて取り組みます。

「自殺対策の推進に関する条例」の制定へ



- 【平成25年 健康福祉委員会】 5月22日 委員から条例の発議を提案
以後8回にわたり委員会で議論
10月16日 市民意見の募集（パブリックコメント）を行う。
（意見募集期間：1箇月）
12月12日 条例案を決定し、委員長が議長に条例案を提出

【平成25年第4回定例会（12月18日）】 本会議において賛成多数で条例案を可決

(1) 自殺対策総合推進計画

- ・ 市は、川崎市の状況に応じた自殺対策総合計画を定めるとしました。
- ・ 計画には、自殺対策に関する定量的な目標を定めるとしました。

(2) 責務と役割

- ・ 市や事業者の責務、市民の役割のほかに、保健医療サービス等を提供する者の責務や学校等の教育機関の責務について規定しました。

(3) 体制の整備

- ・ 市と関係機関等が相互に密接な連携を図るための仕組みを整備するよう努めることとしました。
- ・ 行政における人材の確保や育成のほかに、自殺の危険を示すサインに気付き、声をかけ、話を聞き、必要に応じて専門家につなげる人たち、いわゆる「ゲートキーパー」の養成についても規定しました。

【健康福祉委員会での主な議論】

条例の前文は必要でしょうか。入れる場合は、どのような内容が良いでしょうか。

学校等の教育機関の責務は、規定するべきでしょうか。他よりも強い内容とすることはどうでしょうか。

川崎市には7つの区があるので、区ごとの実情への配慮や、対応策について言及してはどうでしょうか。

自殺対策の数値目標のところは、直接的な表現は避けましょう。

推進体制には、庁内だけでなく、外部の機関を加えるべきです。ただ、よくある審議会の形にとらわれない方が良いでしょう。



<条例制定後の審議や取り組みなど>

【平成26年第1回定例会（3月）】

質問

先の議会において、川崎市自殺対策の推進に関する条例が可決されていますが、条例では、市及び関係機関の連携が進むよう、仕組みの整備を求めています。具体的には、庁内だけでなく関係する第三者機関もメンバーに含め、実務者レベルの会議や調整の場を想定しているのですが、見解を伺います。

答弁

条例の趣旨を踏まえた関係機関の連携体制については、条例により策定が求められ、現在検討しております自殺対策総合推進計画を策定した後、情報共有や意見交換を行うための連絡会を設置し、自殺対策にかかわる民間団体や弁護士、医療機関などの関係機関の参画をいただきながら、総合的な自殺対策の推進を図ってまいります。

取り組みとしては・・・

- 平成27年3月に「川崎市自殺対策総合推進計画」が策定されました。

この計画は、平成27年度からの3年間を計画期間とし、3つの基本方針を定め、条例により施策を講じることとされた9つの事項について、主担当の健康福祉局だけでなく様々な部局で実施する取組項目を定めています。

また、条例により定めることとされた「定量的な目標」については、「平成29年の自殺者を、平成25年の自殺者数243人より減少させるよう、自殺者の減少傾向を維持すること」と定めています。
- 条例で整備することが求められた「関係機関等との連携の仕組み」として、平成27年4月に「川崎市地域自殺総合対策推進連絡会議」が設置されました。

この会議は、自殺予防に関わる法曹・医療・教育・経済・労働・福祉等の関係機関、民間団体等が自殺予防に関する共通認識を持ち、連携内容を確認・検討し、事業実施における実務担当者間の連携強化を図ります。

【その他の取り組み】

- 「川崎市自殺対策評価委員会」

条例に規定された「自殺対策総合推進計画」の進捗状況など市の取り組みを評価するほか、自殺対策に係る重要事項について調査審議する機関として、学識経験者等で構成される「川崎市自殺対策評価委員会」が設置され、平成27年8月に第1回目の会議が開催されました。

川崎市の自殺対策が、「自殺対策総合推進計画」によって新たなスタートを切ったことから、川崎市の自殺及び防止対策の実態把握をこの委員会の第一の業務に位置付け、専門的見地から自殺事例の分析等を行うなど、市の自殺対策におけるブレーンとして、効果的な施策の策定に向けて取り組んでいます。
- 「こころの健康セミナー」と「学習会」

命の大切さとともに、こころの健康維持、自殺の危険を示すサイン、それに気付いたときの対応方法等について、広く市民の皆様にお伝えするために毎年開催して、条例に規定された「ゲートキーパーの養成」に取り組んでいます。

敷居が高いイメージのある「ゲートキーパー」ですが、平成27年10月の開催では、困っている人への寄り添い方について、統合失調症悪化による活動休止から10年を経てコンビを復活させたお笑いコンビ「松本ハウス」に語っていただきました。お二人の一方的な支える-支えられるではない、自身を活かし、お互いを活かしあってきた関係に、会場が共感しました。

また、同日先行して、『「聞く」と「聴く』、「精神疾患について知る」をテーマに、心の相談や精神疾患の専門家による学習会が開催されました。



【案内チラシ】

最近の報道によると…

平成28年1月15日、警察庁は、平成27年の全国の自殺者数が前年より1,456人少ない23,971人と発表しました。18年ぶりに25,000人を下回ったとのこと。

川崎市でも、警察庁の暫定値(発見地・発見日ベース)によると、平成27年の自殺者数は、市の人口が増え続ける中、前年より8人、条例が制定された平成25年より12人減り、208人(※)となりました。

※ こちらの警察庁による数値は、「川崎市自殺対策総合推進計画」の「定量的な目標」で用いている人口動態統計の数値とは異なります。

自殺対策推進キャラクターの紹介



うさっぴー

川崎市自殺対策推進キャラクター

自殺を防ぐゲートキーパーです。

うさぎの大きな耳で、悩みをよく聴きます。

こころ(ハート)を受け止めます。

みんなの幸せ(happy)を考えています。

川崎市健康福祉局

あれ?いつもと違う?変化をキャッチ「どうしたの?」
ひとり、ひとりがゲートキーパー

9月10日～16日は自殺予防週間です。

9月10日の世界自殺予防デーにちなんで、毎年、9月10日からの一週間を自殺予防週間として設定し、国、地方公共団体が連携し、全国で、集中的に啓発事業等が行われています。